

【緑地を楽しむ本】

『みつばち家族の大冒険』

おどろくべきみつばちの生態

私のノンフィクション26

小原嘉明・作 青鹿良二・絵 偕成社 (1992年)



最近ミツバチがしばしば話題になっています。急にミツバチがいなくなってしまったというのです。花の季節なのに、花の間をせっせと飛び回って花粉をつけてくれるミツバチが来ないと実がなりません。「実がなるといいな」と花広場にブルーベリーやモミジイチゴなどを植えた我々にとっては気がかりです。

考えてみるとミツバチについて何も知らなかったということに気づき、『みつばち家族の大冒険』を読みました。＜私のノンフィクション＞シリーズなのに、実は女王蜂アイリスや働き者のはたらきばちスターシャなどが多くの困難を乗り越えてゆく物語になっています。読んでいるうちに自分もアイリス一家の一員となって仲間の蜂たちと生活しているような、楽しい気分になります。でも蜂の生活は全く知らないことばかりです。さしずめ私は上級生のスターシャたちにいろいろ教わって一人前になっていく新米ミツバチというところでしょうか。特に分封の場面などはドキドキしてしまいました。それにしても、ミツバチのダンス言葉、伝染病に対す

る自衛策などミツバチの能力はびっくりすることばかりです。

著者は動物行動学者なので、内容はほんの少しを除いて正確に書かれています。そのほんの少しフィクションを加えたところに関しては、あとがきで詳しく説明しています。だからミツバチのおどろくべき生態に関して、きちんとした知識を得ることができました。

先日原っぱで寝転んでいたらミツバチが何匹も、忙しげにクローバーの蜜を吸っていました。きっとミツバチダンスで教えられて一斉に飛んできたのでしょう。いなくなると騒がれていたけどこんなところにいたの？と、うれしくなりました。



クローバーの蜜を吸うミツバチ